

令和3年度 学校評価報告書

丹波篠山市立今田小学校

校長 堀 香 織

1 学校教育目標等

学校教育目標

「ふるさと今田を誇りに思い、自立して未来に挑戦する今田っ子の育成」

本年度 今田小学校の合い言葉 「当たり前の質と量を上げよう」

2 今年度の重点目標

1. 社会の一員として必要な資質を身につけさせるとともに、集団全体の向上のために自分の思いを伝え、なかまとともに伸びていこうとする児童を育成する。
2. 職員間の情報交換を密にし、児童の心に寄り添った組織的な生徒指導を徹底するとともに、児童の実態から教育的ニーズを把握し、個に応じた適切な指導・支援を行う。
3. 学校運営協議会を核に地域・保護者と連携し、そのふれあいの中でふるさとの良さを発見し、より良いふるさとを発想、発信する活動に取り組むことで学んだことを生かそうとする意欲を引き出し、児童の「生きる力」を培う。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
生徒指導	社会の一員として必要な資質の定着 規範意識を高める指導	B	集団生活におけるマナー向上など当たり前の行動を増やすために児童会と連携した取組が功を奏している。特にあいさつに関して児童アンケートで92%が「進んであいさつができています」と回答している。今後も良い状態が続くよう指導を継続する。
	児童理解と組織的な対応 外部関係機関との連携	A	・問題行動の早期解決に向け、組織的な対応ができた。 ・家庭の不安定さが児童に影響を及ぼしている事案が多く家庭児童相談室をはじめ関係機関との連携を取るとともに、児童・保護者の支援について担任を中心としつつ全教職員で関わる等柔軟な支援体制を心がけた。
学習指導	基礎・基本の定着	B	勉強がわかると回答した児童が88%である。スクリーニングにより実態を把握し個に応じた学習の充実に努めた。学ぶ喜びをこれからも体感できるようにしていく。
	学習形態・指導方法の工夫 改善	B	・児童間や教師との対話を工夫することで自らの考えを伝え合うことを大切にする授業を意識して実践した。 ・定例の校内研修で和やかな雰囲気の中で職員間の学び合いができています。
地域とともに ある学校 づくり	学校運営協議会との連携	A	「ふるさと講演会」をはじめ、さまざまな活動を企画・運営していただいた。また、ふるさと教育の体験活動の橋渡しやゲストティーチャーの紹介をお世話になった。
	地域人材の活用とふるさと教育	A	どの学年も窯元や農家等多くの方々にお世話になり、今田の自然・産業・文化について、子供たちは多くの今田の魅力を発見することができた。また市商工会今田ネットワーク委員会の研修会に職員も参加させていただき、学びを深めることができた。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

- ・あいさつの向上に関しては、児童会をはじめさまざまな取組により成果が見られるようで何よりである。さらなる向上を目指すには、保護者に対する啓発（どちらかという指導）が必要である。根本的なことだが、あいさつの指導は家庭でなされるべきであると思う。
- ・基礎学力の定着という点においては、さらなる取組を期待する。
- ・本年度のふるさと教育は地域を巻き込んで学年ごとに様々なテーマで取り組まれており、学習発表会の動画配信でも子供たちがいきいきと発表する様子が見られたことが良かった。今後も協力できることがあれば言ってほしい。
- ・コロナ禍において苦勞の多い学校運営をされたことと推察する。その中であってふるさと教育をはじめ工夫された取組をされていたように思う。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・自己評価を見て大変良い評価となっているが、なぜこの評価がついたのかがわかりにくかった。改善方策に「～に努めたい」「～していく」とあるところは今後取組をしっかりと進めてほしい。
- ・保護者アンケートをwebでの回答に切り替えたことで回答率は下がったようだが、職員の集計の手間がなくなり業務改善につながったことは評価できる。次回は回答率をあげるようにしてほしい。
- ・ある意味特別な状態での学校生活が続いているが、子供たちもその状態に慣れてきたように感じる。子供たちには感染予防の高い意識を持たせるように継続して指導していただくとともに先生方も十分健康に留意していただきたい。
- ・コロナ禍において委員としての活動がしっかりできているとは言いがたいが、子供たちの心を少しでも動かしてあげられる活動が今後できればいいと感じている。
- ・地域内で子供の姿を見ることが少なくなったように感じる。学校・家庭でのストレス等が多いのではないかと危惧する。そのストレスの軽減のために「遊ぶ」ことが大切だと思う。
- ・徒歩通学児童の安全に関して、地域の皆さんとともに通学路の点検や整備について取り組むことができないだろうか。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
生徒指導	<ul style="list-style-type: none">・あいさつに関しては、保護者自身の我が子の指導に対する自覚が足りないところがあるように感じる。家庭との連携を図り、あいさつが当たり前になるよう今後も指導を継続してほしい。・子供たちが楽しく学校生活が過ごせるように、今後も問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応を心がけていただきたい。
学習指導	<ul style="list-style-type: none">・読書習慣の定着の評価が低いのは、ゲーム、YouTube等家庭には読書より魅力的なものがたくさんあるからである。ゲームの時間を決めるなど保護者に対して何らかの啓発が必要であると思う。・1人1台PCがどのように活用されているのかがわかりにくい。家庭に持ち帰ることもあるようだが、破損等何らかのトラブルはなかったのか。個別の課題に取り組めるのがPC利用のいいところだと聞いたので、適切に利用することで子供たちの学力が向上されるよう願う。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none">・本年度の「ふるさと講演会」は「今田の自然」であったが、子供たちがふるさと教育で学んでいたことと上手くリンクしたために、大変好評であった。自分の育っている地域を誇りに思ってもらえるように、これからも「今田」に関わる内容で継続して取組を進めていくべきである。・ふるさと教育の推進に多くの地域人材が関わっていたことが良かった。今後も積極的に活用してもらいたい。

